

✦「子どもの居場所ひだまり」利用までの流れ

<p>Step 1 問い合わせ</p> <p>気になる人は、電話やメールでご相談ください ☎32-8887 ✉hidamarihitoyosi@gmail.com</p>	<p>Step 2 見学・体験</p> <p>ひだまりの雰囲気を感じることができます。子どもと保護者の希望も伺います</p>	<p>Step 3 申込書類の提出</p> <p>必要書類を記入し提出してください。確認後、受け入れの準備をします</p>	<p>Step 4 利用スタート</p> <p>利用登録後は小学生以上は子どもだけで利用できます。自分で帰宅する子どもは学校のルールに従い、それ以外の子どもは送迎をお願いします</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------



✦「子どもの居場所ひだまり」が各校区に出張します

月に1回（東校区は毎週）、各校区に「子どもの居場所 ひだまり」がやってきます。学校が終わった後に、友達や家族などと一緒に自分の思いの過ごし方ができる場所に行ってみませんか？

時間 午後3～6時（東校区は午後2～6時）

各開所日にはひだまりごはん（！！）として、食事が振る舞われます。20食限定です。

料金 子ども：無料 大人：300円

ひだまりごはんの日		メニュー	
7月	親子丼	令和9年	
8月	ハヤシライス	1月	キーマカレー
9月	牛丼	2月	麻婆豆腐
10月	赤飯、つぼん汁	3月	ちらし寿司
11月	ガパオライス		
12月	シチュー		

※変更になる場合があります。

<p>東</p> <p>ヒトハレハウス いっとこ（上新町）</p> <p>毎週火～金曜 ！！水・金曜</p>	<p>西</p> <p>東西コミセン （城本町）</p> <p>第2水曜</p>	<p>東間</p> <p>田町地域学習センター （麓町）</p> <p>第4月曜 6・11・3月：第5月曜 12月：第3月曜</p>
<p>大畑</p> <p>大畑コミセン （大畑町）</p> <p>第3月曜 7・9月：第2水曜</p>	<p>西瀬</p> <p>西瀬コミセン （下戸越町）</p> <p>第4水曜 9月：第5水曜</p>	<p>中原</p> <p>中原コミセン （下原田町荒毛）</p> <p>※変更になる場合があります。 第3水曜</p>

✦ 子どもの居場所を運営する人の声

子どもたちが自分らしく過ごせる居場所を目指して活動する「ひだまり」。子どもたちとの関わりの中で大切にしていることや、出張ひだまりに込める思いを代表の松田さんに聞きました。



松田 亜希子さん（上永野町）
子どもの居場所 ひだまり 代表

安心して過ごせる「ひだまり」

「子どもの居場所ひだまり」は、子どもたちが安心して過ごせる地域の居場所です。宿題をしたり、友だちと遊んだり、寝転がってゆっくりしたり、過ごし方はそれぞれ。「ひだまりごはんの日」と称して、地域の子どもたちにも食事も提供しています。利用は原則登録制。子どもや保護者と顔の見える関係を築きながら、安心して利用できる居場所づくりを進めています。事前の見学や相談も受け付けています。

子どもの「やりたい」を大切に

活動の中で大切にしているのは、子どもたちの「やってみよう」という気持ちを受け止めること。バナナスミージーを作ったり、そうめんをゆでてみんなに振る舞ったり、日常の小さな体験が子どもたちの自信につながっています。農業体験や百人一首、折り紙、あやとり、カードゲームなど、多彩な遊びや体験ができることも魅力の一つ。未就学児から高校生まで幅広い年齢の子どもが集まり、上の子が下の子の面倒を見るなど、自然な多世代交流も生まれています。

「地域のおばちゃん」の距離感で

「ひだまり」が大切にしているのは、スタッフが先生ではなく、「地域のおばちゃん」のような距離感で子どもたちと接していること。一人一人が自分らしく過ごせる居場所づくりに奔走中



▲地域のおばちゃんのように子どもたちと触れ合う松田さん。一人一人が自分らしく過ごせる居場所づくりに奔走中

ちと関わることで。親や先生には言えない本音を、ふと話せる関係づくりを大切にしています。

ボランティアの力も居場所には必要

ダメなことはダメと伝える「世間の感覚」に触れることも、子どもたちの成長には欠かせないと考えています。そこで重要になるのが地域の皆さんの存在です。さまざまな大人と関わり、「あの人は好き」「あの人は苦手」といった経験を重ねることで、子どもたちは社会の中での適切な距離感や人との関わり方を学んでいきます。また、地域の見守りの目が増えることで、不登校の兆しなど子どもたちの小さな変化にも気づきやすくなります。「近くに居場所があったらいいのに」という切実な声から始まった「出張ひだまり」。地域みんなで子どもを見守り、支える輪を広げていきます。